



ボランティアセンターだより

平成 2 年 8 月 10 日 (金)

第 7 号

発行人

社会福祉法人豊中市社会福祉協議会

ボランティアセンターだより編集委員会

〒560 豊中市桜塚2丁目28-7

☎06(841)9393

広がっています

福祉教育の輪

福祉教育協力校である豊中市立第十八中学校と大阪府立刀根山養護学校の交流が去る七月十三日に行われました。

福祉教育協力校とは、豊中市社会福祉協議会(以下市社協)が「小・中・高校の児童生徒を対象として社会福祉への理解と関心を高め、社会福祉・社会進歩の精神を養い、またそれらの取組みを通じて家庭及び地域社会への啓発を図ること」を目的として、現在市内で十一校と当該校区福祉委員会



卓球バレーを楽しむ両校の生徒達

(表一参照)をモデル地区として指定しているものです。今回の交流内容は、刀根山養護学校から六名、十八中学からは十一名の参加で「卓球バレー」の試合でした。刀根山養護学校と十八中学の交流は今年で五回目、刀根山養護学校は国立療養所刀根山病院に入院している筋ジストロフィー症の子ども達で、二十四時間医師の受診で、手厚い看護と養護を受けながら、学んでいる所です。

表一、市内のボランティア協力校一覧

校名	校区名
新田南小学校	上新田
第十六小学校	北条
原田小学校	原田
少路小学校	少路北緑丘
庄内南小学校	庄内南
第十三中学校	野田
東豊台小学校	東豊台
小曾根小学校	小曾根
第十五中学校	東泉丘

試合は、卓球台の各コーナーに二名ずつ六名一チームで対戦し、手作りラケットで対戦し、卓球バレーを行いました。

市内のボランティアグループ実態調査より
他のグループと交流の機会が欲しい”

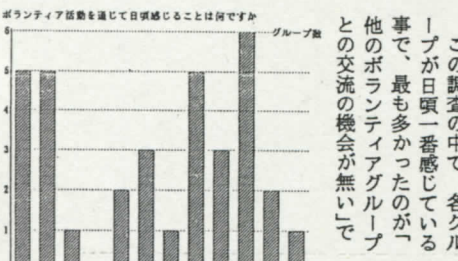
ボランティアスクール入門講座終了

ボランティアはいま パート3

保険の項目	ボランティア保険	有償活動保険	子供保険	行事保険
加入対象	ボランティア活動に参加する方	府下、地域を対象として有償活動を行っている団体	地域で活動している子供を中心としたグループ	ボランティア保険の加入対象になるグループ、団体が主催する行事
掛金	年間1名 300円	年間1名 1000円	年間1名 150円	宿泊なし 1名 20円 泊2日 1名 160円
保険期間	毎年4月から翌年3月31日までの1年間 (途中加入の場合、毎月、1日、10日、20日から発効)			

ボランティアとは、特別な人ではなく、ごく普通の私達が出来る活動なのです。少しの時間を、他者に手をさしのべる事、意味と喜びを見出し活動する人が、初めてボランティアと言えるのです。

声
そしてその中でつらい思いや、情けない思いを味わう。
そんな心の中の思いをどう乗り越えるかによって、その人の成長もあるのです。人は支え合っている事も実感出来る、人を支えている



ボランティア活動を通じて日頃感じることが何ですか

ボランティアはいま パート3

ボランティアはいま パート3

地域では今何が求められているのか？

平成元年度 ボランティア活動調整結果より

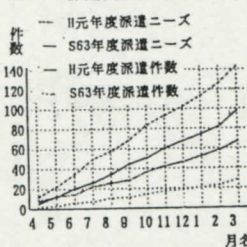
昭和六十三年よりスタートした「登録ボランティア派遣事業」も三年目を迎え、地域の方々からのボランティアに対するニーズは段々高まってきています。(図一)そこで、今回は平成元年度のボランティアの需給調整の結果をもとに地域で今どのようなニーズがあり、それらを支える福祉施設やボランティアがどのように対応しているのかをご紹介します。

◆「とにかく誰かの援助が欲しい」。「高まるボランティアニーズ」

市社協のボランティアセンターに「だれか助けて欲しい」という声があがっています。



図一、派遣要請件数の推移



「身内の障害者で、息子は東京へ転勤になって、頼れる身内は誰もいない。行政施策の利用を考えたが年齢や身体障害者手帳の等級



平成二年七月十八日、ボランティアの方々二十数名とこの五月に完成、七月より事業がスタートした豊中市立障害福祉センター「ひまわり」を見学させていただきました。

阪急東宝駅南へ一キロ(徒歩約十二分)、ピンクのタイル外壁、地下駐車場、地上四階建ての立派な建物で、内部もゆったりと明るい感じでした。

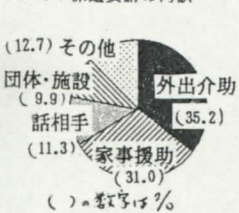
設備も最新の機械浴槽、高さが可動式の調理台(車イスのままで自由に使用できます)のある調理実習室、蛍光灯、エアコン付の体育館、防音装置の音楽室、録音室、情報交換の場となるコーナー、落ち着いた和室の談話室、障害者が自主運

営する喫茶コーナー、緊急一時保護室、粘土、さおり等の作業室、会議室、目をはるものばかりです。

この施設は、障害者の地域における「完全参加と平等」が保障される社会の実現と「共に生きる」社会の創造にむけて、市民との交流を促す意義をもっています。

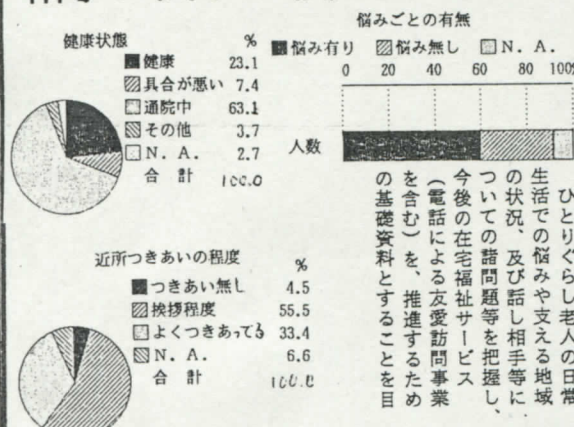
今後、この施設が市民へのPRを広め、どのような形で真の障害者と市民との交流の場になっていくのか、等、まだ課題はありますが「百聞は一見に如かず」、多くの方が見学し豊中の地域福祉の拠点施設となるよう、また、一年後、心あたたまるさまざまなふれあいの報告を期待しています。(N・H・)

図二、派遣要請の内訳



() 数字は%

ひとり暮らし老人の話し相手に関する調査中間報告



ひとり暮らし老人の日常生活での悩みや支える地域の状況、及び話し相手等についての調査結果を把握し、今後の在宅福祉サービス(電話による友愛訪問事業を含む)を、推進するための基礎資料とすることを目的として、豊中市社会福祉協議会を主体として、市社協登録ボランティアグループ「聴く会」が関ったこのアンケートは、五月末ひとり暮らし老人約二、〇〇〇世帯を対象に郵送し、六月末約一、〇〇〇通の回答が寄せられました。この結果は七月末集計、分析を完了し八月下旬にその全貌が判明する予定です。

回答者の一枚一枚にこめられたひとり暮らし老人の日々の思いと悩みが身にそくそくと伝わってまいります。他人事ではなく私達一人一人の問題だということをお互に胸に刻みこみながら鋭意作業を進めています。(T・Y・)

表一 豊中市別地区別ボランティア登録数

地区	登録数
東区	4
南区	5
北区	4
西区	4
東山区	3
南山区	7
北山区	1
西山区	5
東山区	4
南山区	2
北山区	4
西山区	4
東山区	2
南山区	1
北山区	2
西山区	1
東山区	3
南山区	14

多くのボランティアの熱意によって支えられているこの事業も残念ながらボランティアだけでは対応が困難なケースもいくつかあります。それらは、「毎日のねた

きり老人の介護のお手伝い」「毎日の障害児の養護学校へのバス停までの送迎」「父子家庭の家事援助」等頻度の高い活動や「入浴介助」「うつ病の方との話し相手」等専門性の必要活動です。登録ボランティアも現在二百名を越えています。小学校区に分類すると、かなり格差があり(表一参照)小地域で支えあいを行なうにはまだまだ不足しているのが現状です。また、在宅での活動は長期化する傾向があり、専門機関との連携を密にしなが活動しなれば、専門的なケースには対応しきれないという課題もあります。

そこで今後は、小地域でのボランティアの積極的な掘り起こしと関係機関とのネットワーク及びボランティア自身の質の向上が大きな課題になるといえます。

◆「ボランティア活動の手引き」について

ボランティアセンターではこの度、「ボランティア活動の手引き」を学ばせたい。分ちあひ」を作活動をする上での心構えから市の福祉施設まで盛りだくさんの内容です。是非活用ください。

◆「ボランティア活動の手引き」について

登録ボランティアの名刺パッチの貸出

市社協ボランティアセンターでは、ボランティア活動をする方に名刺パッチを貸し出すことになりました。

ボランティアの広場